

|        |                      |      |                                                      |
|--------|----------------------|------|------------------------------------------------------|
| 学校教育目標 | 夢と志をもち、未来を切り拓く子どもの育成 | 経営理念 | 学校内外の教育環境を最大限に活用し、次世代を担う人づくりを行うとともに、地域とともに発展する学校を創る。 |
|--------|----------------------|------|------------------------------------------------------|

| 評価計画       |    |                           |               |                                                                  |                                         | 自己評価               |                       |   |                          | 学校関係者評価 |                                                                                                                                                                                | 改善方策 |                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                         |
|------------|----|---------------------------|---------------|------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------|--------------------|-----------------------|---|--------------------------|---------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 項目         | 重点 | 中期経営目標                    | 短期経営目標        | 目標達成のための方策                                                       | 評価項目                                    | 目標値                | 達成値                   |   | 達成度                      | 評価      | 結果と課題の分析                                                                                                                                                                       | 評価   | コメント                                                                                                                                      | 改善方策                                                                                                                                                                                    |
|            |    |                           |               |                                                                  |                                         |                    | 10月                   | 月 |                          |         |                                                                                                                                                                                |      |                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                         |
| 確かな学力の向上   | 1  | 自ら学ぶ子どもの育成                | 主体的に取り組む児童の育成 | 主体性の育成に係る実践研究                                                    | ・児童アンケート「授業に生かすために自主学習をしている。」           | 肯定的評価: 85%以上       | 肯定的評価: 83.1%          |   | 97.8%                    | 2       | ・児童アンケートで肯定的評価は、低学年が78.3%、高学年が88%で、全体では83.9%であった。低学年は、まだ、自主学習の仕方を学んでいる段階なので引き続き、取組を継続していく必要がある。                                                                                | B    | 自主学習を充実させるためには、保護者の理解や協力も大切である。児童にどのような力を身に付けようとしているのか根気強く働きかける必要がある。                                                                     | ・保護者にも学年通信や学校だより等で学校の取組を引き続き根気強く働きかける。また、自主学習の内容についても継続して指導していく。                                                                                                                        |
|            |    |                           |               |                                                                  | ・教職員アンケート「授業において児童が主体的に活動するための工夫をしている。」 | 肯定的評価: 85%以上       | 肯定的評価: 95.2%          |   | 112.0%                   | 4       | ・授業の導入から、自分が興味工夫を引き出すものを準備したり、学習の中で方法を自己決定させる場面を意図的設定したりして、主体的に活動するための工夫を行った。                                                                                                  | A    | 若手教員も自信をもって授業が行えるようにするために教員相互の授業力向上に向けた協働が必要である。研究等の在り方工夫して協働の風土をつくることが重要である。                                                             | ・学年部会や校内研修等で、授業について話し合い、練り合うことを通して、試行錯誤しながら授業研究を行っている。                                                                                                                                  |
|            |    |                           | 基礎学力の定着       | 個別プリント・タブレットドリル学習の推進                                             | ・業者テスト国語(知識・理解)                         | 80点以上の児童: 85%      | 国語: 93%<br>算数: 94%    |   | 国語: 109.4%<br>算数: 110.6% | 4       | ・学年部で、継続して朝の時間やドリルタイムなどを活用し、基礎学力の定着を図った。また、高学年の算数では、学級を解体し、自分の進捗に合ったコースを選択して学べるコース別学習を行い、児童の意欲や知識・技能をの力を高めることができた。                                                             | A    | 児童の実態把握に努めるとともに、個に応じた指導・支援を行うことで顕著な成果が表れている。今後も取組を継続してもらいたい。                                                                              | ・引き続き、朝の時間や昼のドリルタイムを活用し、児童が主体的に学ぶことができるように、学習方法を工夫したり、一人一人に合った課題を選べるようにしたりして工夫をしながら基礎学力を高めていく。                                                                                          |
| 豊かな心の育成    | 2  | 思いやりのある子どもの育成             | あいさつの定着       | 児童会、PTA、地域との連携・協力                                                | ・児童アンケート(児童自らが設定した「あいさつ目標」の達成率)         | 肯定的評価: 85%以上       | 肯定的評価: 90.4%          |   | 106.4%                   | 4       | ・あいさつの自己目標を設定し、掲示したり、振り返りすることで、肯定的な評価につながった。<br>・6月に行ったアンケートよりも数値が下がっている部分もみられるが、目標を更新した時期と重なったためであり、あいさつに向けた意識は向上しつつある。                                                       | B    | 全校や学年で集まる場面等を利用して、「気持ちの良い挨拶」の具体的なイメージを持てるよう努めなければならない。また、上の学年が、モデルとしての挨拶を行うという意識を高める必要がある。                                                | ・あいさつ委員会を中心に、「気持ちの良いあいさつ」のモデルを示し、児童の意識を高める。また、学年に合ったあいさつ目標の設定や自己目標の改善等を各学年の生徒指導部を中心に進めている。                                                                                              |
|            |    |                           |               |                                                                  | ・保護者アンケート「自分のお子様は家庭でよくあいさつをする。」         | 肯定的評価: 80%以上       | 肯定的評価: 67.5%          |   | 84.4%                    | 2       | ・あいさつ運動を実施し、保護者へ参加を呼び掛けることで、あいさつに向けた一定の評価があった。<br>・一方で、児童全体のあいさつを問う項目での肯定的な評価は、年々向上しているものの、58.8%にとどまっており、学校と家庭とで連携した活動が必要だと考える。                                                | B    | 挨拶は家庭や地域と一体的に取り組むことが大切である。特に家庭における挨拶の習慣を促す働きかけを学校としてもPTAへとも行っている必要がある。                                                                    | ・児童が立てたあいさつ目標を家庭に周知したり、家庭で話し合っで児童のあいさつ目標を立てさせりすることで、学校と家庭とが「気持ちの良いあいさつ」に向けた方向性を合わせていく。また、定期的にあいさつを振り返る活動を様々な場面で行い、家庭における児童へのあいさつ推進の働きかけを促す。                                             |
|            |    |                           | 支持的風土の醸成      | ・異年齢集団活動の推進<br>・児童会活動の充実                                         | ・児童アンケート「ほかの学年の人と協力して活動するのは楽しい」         | 肯定的評価: 90%以上       | 肯定的評価: 91.3%          |   | 101.4%                   | 2       | ・縦割り班での掃除や交流活動を行うことで、異年齢集団で協力したり、楽しみを分かち合ったりすることができた。<br>・児童会活動にかかわって肯定的な評価が低くなった要因として、自らの活動に対する振り返りや他者からの評価が少なかったことにあると考える。今後は、児童の活動に対する肯定的な評価(声掛け)を意識していくことが必要である。           | B    | 他者や社会のために貢献できているという実感は、児童の自己肯定感を高める上で重要な視点だと考える。指導者による肯定的な評価も重要であるが、子供相互に評価し合う習慣を身に付けさせることにも注力しなければならない。                                  | ・引き続き、縦割り班での掃除や交流活動を行い、異学年集団としてのつながりを高めていく。<br>・縦割り班活動では班長を中心とした高学年からの評価、委員会活動では低・中学年からの評価、学級活動では学級内で評価をする機会を設定し、自己有用感を高めていく。                                                           |
| 健やかな身体力の育成 | 3  | 自ら安全や体力向上を意識して生活できる子どもの育成 | 食育の充実         | 自己目標を意識した食育指導の充実                                                 | ・残食率                                    | ・4%台               | 6.4%                  |   | 63.0%                    | 1       | ・自己目標を設定した上で完食キャンペーンを行うことで、期間中は残食率が5.6%まで減少した。今後も意識が継続するよう、引き続き定期的に完食キャンペーンを行う。                                                                                                | B    | 食に関する教育は、家庭との連携が重要である。学校給食を通して継続的に取り組んでいる食育を、様々な形で保護者に広報し、学校・家庭が同じ目標や意識をもって取組が進められるよう努めていかなければならない。                                       | ・完食キャンペーンを定期的に行い、一人一人が食に向き合う機会を設ける。<br>・給食委員会とスポーツ委員会が主催の活動を計画し、外遊びを促し十分に身体を動かすことで、よりおいしく給食を食べられるようにする。<br>・毎月発行している保健だよりや給食だよりに食に関する情報を積極的に掲載し、家庭での食教育が進むよう促す。                         |
|            |    |                           |               |                                                                  | ・児童アンケート「給食の時間が楽しい」「給食を残さず食べている」        | ・肯定的評価: 80%以上      | 肯定的評価: 91.4%<br>83.5% |   | 114%<br>104%             | 3       | ・「自分で決めた量は残さず食べる」を意識できている児童が多く、肯定的評価が高かったが、増減の量に個人差があり、残食率の減少につながっていない。                                                                                                        | A    |                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                         |
|            |    |                           | 体力の向上         | ・外遊びの励行<br>・固定道具等を活用した体育授業の工夫<br>・体育的行事の充実                       | ・新体力テスト課題種目(50M走)結果                     | ・全国平均値以上の学年: 67%以上 | 50%                   |   | 74.6%                    | 2       | ・プレバフ前にラダーを設置し、個人や友達と一緒にトレーニングができるような場を設けた。今後、使い方を周知することで、体力の向上を目指す。                                                                                                           | A    | 児童の体力を向上させるためには、体育科の授業の質的向上も重要であるが、日常的に体を動かす習慣づくりを行う必要がある。休み時間の外遊びの取組に加え、家庭で気軽に行なえる運動の紹介や保護者への働きかけについても取組を進めていきたい。                        | ・11月から毎月、体育的行事を計画し、外遊びを行う場を仕組む。<br>・ラダーを活用し、個人や友達とトレーニングできるようにする。<br>・スポーツ委員会主催の活動を計画し、児童が主体的に楽しみながら体力向上を目指すようにする。<br>・週休1日や長期休業中の家庭学習の内容に、簡単な運動を取り入れる等して、家庭と協力した体力づくりを進められるようにする。      |
| 働き方改革の推進   | 4  | 業務改善の推進                   | 児童と向き合う時間の確保  | ・学校行事等の精選<br>・ネクスト主任層の育成と組織体制強化<br>・教職員働きがい意識向上<br>・勤務時間外在校時間の軽減 | ・教職員アンケート「働きがい意識向上」に資する取組状況             | 肯定的評価: 80%以上       | 肯定的評価: 78%            |   | 97.5%                    | 2       | ・これまで業務改善については、「働きやすさ」を中心に捉えていた教職員が大半であったが、「働きがい」の視点に重きを置くことにより、「チーム龍王」への参画意識や貢献意識を高めることができた。但し、「働きがい」のイメージを明確にできていない教職員や「働きやすさ」とのバランスを保ちにくい教職員も見られており、より一層効果的な業務改善を追求する必要がある。 | A    | 学年主任や副主任を対象に行っていた研修に加えて、教職5年目までの教員を対象に行うこととなった「新芽の会」の取組は大変有効であると考え、教師が自信をもって、悩みや不安な子どもと接することが出来るようにすることが「働きがい」を生み出すことを意識し、より研修の充実を図ってきたい。 | ・教職員が行う業績評価自己評価の内容について、「働きがい」に係る内容を明記し「授業力向上」「学級経営の向上」「生徒指導力向上」「校務分掌の積極的推進」の4視点から自らの課題と、目標の明確化を一層進める。また、各分掌、各委員会、各部等でのチーム龍王としての協働意識を高められるようにし、個々の実態に合わせた業務改善が進むよう互いに支え合い声かけあえる風土醸成に努める。 |

※目標の精選と重点化を行い、重点の項に「1」「2」「3」で表示する。

■自己評価  
4...目標を上回って達成  
2...目標をやや下回って達成  
3...目標どおり達成  
1...目標をかなり下回って達成

■学校関係者評価  
A...とても適切である  
C...あまり適切でない(N...判定できない)  
B...概ね適切である  
D...全く適切でない